

会 議 名	第13回 まちづくりの勉強会
日 時	令和元年8月28日 午後7時30分～午後9時30分
内 容	<p>[テーマ] 高山の未来のための都市づくり ～30年後(2050年)の高山、何を目指して生きるんや～</p> <p>[参加者] 市 民 13名 事務局 3名 計16名 (10代：0名 20代：0名 30代：3名 40代：6名 50代：4名 60代：3名 70代：0名)</p> <p>[勉強会の流れ] ① はじめに(1分) 進行：事務局 ② 都市基本計画の見直しについて情報提供(24分) ③ グループ討議(65分) 30年後の高山市の姿についての最悪の仮説を克服するための旗を立て、高山市はまず何をすべきか ということテーマに、各グループで討議 ④ グループ別発表(20分) ⑤ 意見交換(7分) ⑥ おわりに(3分)</p> <p>[都市基本計画の見直しについて] ・都市基本計画とは、将来の高山市をどのようなまちにするのかを決める計画。 ・主に、土地の使い方の方向性、町に必要な施設の整備、景観や環境をどのように守っていくのかを定めていく。 ・将来の都市づくりにおいて、人口減少や高齢化による影響が懸念される。 ・目指す都市の姿 <ul style="list-style-type: none"> ▸ 商業施設や医療・福祉施設、住居等が、市の中心部や支所地域の拠点となるエリアにまつまって立地することで、日常生活に必要なサービスや行政サービスが、住まいの身近に存在するまち ▸ 高齢者をはじめとする住民が自家用車に過度に頼ることなく、徒歩や公共交通により、商業施設や医療・福祉施設等にアクセスできるまち </p> <p>・『コンパクトな拠点をネットワークで結ぶ都市構造』の構築を目指す。</p> <p>[グループ別発表] 【グループA】市街地 最悪の仮説 昔は「飛驒高山」として名を馳せていたが、古い町並は観光客の姿もまばらで、商店街はシャッター街となっている。 ・最悪のシナリオになるのは、どういう状況か。 高山市 … チェーン店ばかりで、他の町との違いが無くなる。 風情が感じられない店舗が増える。高山らしさが無くなる。 ↓ 観光客 … 飽きる。繰り返し高山に来たいと思わなくなる。 似たような町へ観光に行く。 ↓ 高山市 … 商店街、古い町並に住む人がいなくなり、コミュニティが維持できなくなる。 ・高山らしさとは何か。 干し柿が吊るしてある、打ち水をしている、雪かきをする、ゴミが落ちていない等、普段の暮らしぶりや生活を感じるもの。 (古い町並などのハード面だけでなく、ソフト面も大切。)</p>

- ・では、何をすべきか。

高山の暮らしをリスペクトし、「高山ゼミ」をやってみよう！

(干し柿の作り方、高山伝統の料理、季節ごとのイベント(絵馬市、手筒花火等))

【グループB】 集落

最悪の仮説

郊外の集落では住む人がほとんどいなくなり、空き家ばかりとなって田畑や山林は荒れ放題。

- ・最悪のシナリオは既に始まっているのではないかと。
そもそも30年後、私たちや子ども、孫の代まで健康に生きていられるのか。
水道事業の民営化、森林事業の民営化、遺伝子組み換えの作物 → 不安が残る
将来的に体を維持できないんじゃないかという危機感を持たねばならない。
- ・産業 : 集落が衰退し、住む人が減っていくということを受け入れないといけない。
担い手が減るため、農業、林業の法人化、IT化を進める。
- ・集落の維持 : 衰退していく集落の田園風景は二度と戻らないため、記録が必要である。
コンパクトに持続して生きて行けるよう、必要最小限のコミュニティを維持する。
- ・集落の利用 : 農業者でなくても農地が買えるような法整備が必要である。
- ・では、何を指すか。
健康が第一。子どもたちを安心して育てられるような地域でありたい！
「食の安全、農業の安全」を宣言し、一つの旗としたい。

【グループC】 仕事

最悪の仮説

高校を卒業した若者は高山市を離れ、Uターンする者は少ない。また、田舎暮らしに夢を抱き都市部から移住したものの、高山市には、仕事も抱いていた魅力も無く、失望してしまう。

- ・最悪のシナリオは本当に起こる可能性がある。
- ・高山市に住む魅力(メリット)、また危機感は何だろうか。
- ・仕事と家庭 : 職場と自宅が近いため、親と子が一緒にいられる時間が長い。
仕事で疲れ果てている現状もある。
- ・働く環境 : 観光地で働きたいと思う人はいるはずだが、寮付きの仕事が無いため、なかなか来れない。宿舎等の施設を整備すると良い。
従業員のモチベーションが上がる仕組みを導入すると良い。
(語学が学べる、語学修得者にプラスαの給料 等)
- ・伝統産業 : 「飛騨の匠」のネームバリューや技術はすごいが、工芸品はあまり売れていない。
次の世代に繋がっていくような、後継者を育てる必要がある。
子どもたちが職人体験をして、職人に憧れや誇りを持ってもらえるようにする。
林業の復活が重要である。
- ・では、何が必要か。
企業、市民、行政の皆で、市内外への**情報発信**、ITの充実
賃金の向上
→ 量か質なら、質の向上を目指す。個人でも一生懸命やっているが、企業と市民と行政が皆で同じ方向を向き、高い価値をつけよう。それが結果的に賃金の向上になる。

[全体ディスカッションでの主な意見]

- ・飛騨高山の暮らしをリスペクトしてくれる事業者になってもらうことが大切だと感じた。
- ・もともと高山に住んでいる人、他所から移り住んで来た人に「高山っていいな」と思ってもらえるように「高山ゼミ」をやりたい。
- ・30年後は遠くないこと。明日からでも何か行動していかないと間に合わないんじゃないか。

[アンケートより抜粋]

- ・ハード面は行政や景観に意識のある方が必ず守るので残る可能性は高いが、それだけでは魅力が無くなる。ソフト面も大切だと思う。
- ・ぜひ「高山ゼミ」をしてほしい。

[まとめ・次回について]

- ・今回は旗を立てる方向性について検討したため、次回は具体的に展開をしていく。
- ・第14回は、令和元年9月25日（水）19：30～21：30 市役所にて。